

# 旭の里山・生きもの写真集

(岡山県美咲町旭地域)

## その5 水辺環境の指標 トンボ



## 1. 旭地域で見られるトンボ



(1)アオイトンボ♂(アオイトンボ科) 2014.10.10  
3~5cm. 成熟♂は胸部に白粉をおびる。複眼は青色



(2)オオアオイトンボ♂(アオイトンボ科) 2020.11.08  
4~5cm. ♂♀ともほぼ全身が緑色の金属光沢。♂も白粉は出ない。夏から11月まで見られる。



(3)-1 ホンミオツネトンボ♂(アオイトンボ科) 2012.03.06  
3~4cm. オツネは「越年」で、トンボでは珍しく成虫越冬。越冬時期は未成熟で木の枝のよう。



(3)-2 ホンミオツネトンボ♂(アオイトンボ科) 2010.05.31  
春になると成熟してきれいな青色に変わる。特に♂は鮮やか。



(4)-1 アサヒナカワトンボ♂(カワトンボ科) 2021.05.04  
4~6cm. 橙色翅型の♂。林内の細い溪流にいる。本種の♂にはこの橙色翅型と無色翅型の2型がある。



(4)-2 アサヒナカワトンボ♂(カワトンボ科) 2021.05.04  
無色翅型の♂。橙色翅型と同じ場所で混在。♀は腹部がやや太く尾端が膨らみ翅は無色型のみ。



(5)ハグロトンボ♂(カワトンボ科) 2021.07.20  
5~7cm. 川や水路の近くで見られる。♂の腹部は緑色の金属光沢があるが、♀は翅も体色も黒褐色。



(6)ミヤマカワトンボ♂(カワトンボ科) 2021.07.21  
6~8cm. 水のきれいな溪流にいる。♀の体色も♂とあまり変わらない。



(7)モノサシトンボ♂(モノサシトンボ科) 2013.06.30  
4~5cm。腹部各節前端の目盛りのような淡色の紋が名の由来。やや薄暗い樹林近くにいることが多い。



(8)キイトンボ♂(イトンボ科) 2011.07.11  
3~5cm。♂の腹部は鮮やかな黄色で先端部背面は黒。♀は全身が淡黄色~淡緑色。



(9)-1 アジアイトンボ♂(イトンボ科) 2010.08.17  
およそ 3cm。♂は腹部末端付近の青色斑が目立つ。



(9)-2 アジアイトンボ未熟♀(イトンボ科) 2012.05.21  
成熟♀は腹部背面が黒、他はほぼ淡緑色だが、未熟なうちはこのようなオレンジ色をしている。



(10)オオイトンボ♂(イトンボ科) 2011.09.06  
3~4cm。♂は黒と青のはっきりとした色。腹部は各節の前端と末尾の3節が青。♀は黒と黄緑(青もいる)。



(11)ホソミイトンボ♂(イトンボ科) 2014.07.19  
3~4cm。頭部が小さく腹部がとても細い。成虫で越冬ということだが、冬季にはまだ見たことがない。



(12)-1 モートンイトンボ♂(イトンボ科) 2014.06.06  
およそ 3cm。♂は腹部がきれいなオレンジ色。  
岡山県のRDB(レッドデータブック)2020で準絶滅危惧。



(12)-2 モートンイトンボ♀(イトンボ科) 2013.06.24  
未熟時は黄色~オレンジ色でアジアイトンボ♀と似ている。  
複眼の内側に沿って淡色の部分があり区別できる。



(13)カトリヤンマ♂(ヤンマ科) 2021.07.27  
7~8cm。近年激減。♀は秋に湿った田の泥土などに産卵するがそういう場所がなくなったせいかな？



(14)ギンヤンマ♂(ヤンマ科) 2012.08.05  
7~8cm。♂は腹部の前方が水色。ため池で縄張り争いをするのがよく見られる。



(15)クロスジギンヤンマ♂(ヤンマ科) 2019.04.25  
7~8cm。ギンヤンマとよく似ているが胸部の側面に2本の黒い筋があり、腹部には細かい斑紋がある。



(16)マルタンヤンマ♀(ヤンマ科) 2014.07.19  
7~8cm。♂は複眼などがコバルトブルーで美しいが写真が撮れていない。♀の翅は煙ったような色。



(17)ヤブヤンマ♀(ヤンマ科) 2016.07.30  
8~9cm。本種の♂も美しいが、写真なし。♀も複眼は青みをおびた緑でとても美しい。



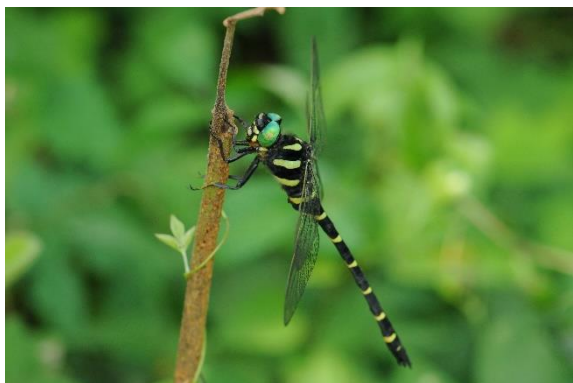
(18)コオニヤンマ♂(サナエトンボ科) 2020.06.28  
8~9cm。ヤンマ類ではなく大型のサナエトンボ類。頭部が小さく、後脚がとても長い。



(19)フタスジサナエ(サナエトンボ科) 交尾 2013.05.16  
4~5cm。胸に2本の黒い筋。若葉のころ現れ、夏にはもういない。



(20)ホンサナエ♂(サナエトンボ科) 2011.05.17  
おおよそ5cm。ずんぐりした体形。この時以来姿を見ていない。



(21)オニヤンマ♂(オニヤンマ科) 2013.08.16  
9~11cmで日本最大のトンボ。複眼は緑色で左右が1点で接する。♀には槍のように突き出した産卵弁がある。



(22)トラフトンボ♂(エゾトンボ科) 2016.05.04  
5~6cm。春から初夏にだけ出現。♂はため池などで縄張り飛行をする。青い眼と黒黄の腹部が特徴。



(23)ウスバキトンボ♀(トンボ科) 2013.09.03  
4~5cm。群飛する姿がよく赤トンボと言われるが、赤トンボの仲間ではない。南から北へ北上しながら世代交代。



(24)オオシオカヲトンボ(トンボ科)交尾 2014.09.05  
5~6cm。♂は成熟すると全身に青い粉を吹く。シオカヲトンボよりがっちりした体で、色も濃い。



(25)キトンボ♂(トンボ科) 2015.11.03  
4~5cm。♂♀とも翅の前端と中心寄りがきれいな橙色。オスは腹部も黄赤になる。晩秋まで成虫がいる。



(26)コシアキトンボ♂(トンボ科) 2010.07.19  
4~5cm。♂♀ともに腹部前方に黄白部分があるので「腰空きトンボ」。♂は池の上などで縄張り飛行をする。



(27)-1 シオカヲトンボ♂(トンボ科) 2014.07.04  
5~6cm。最も普通に見られるトンボ。成熟♂は腹部に灰白粉を吹く。♂♀とも腹部末端1/3ほどが黒い。



(27)-2 シオカヲトンボ♀(トンボ科) 2014.07.17  
5~6cm。♀の体はこのような色彩なので「ムギワヲトンボ」と呼ばれることも。



(28)シオヤトンボ(トンボ科)交尾 2014.06.01  
4~5cm。シオカラトンボを小型にしたようなトンボ。翅の基部に  
橙色斑。成熟♂は白粉を吹く。4月頃から現れる。



(29)ショウジョウトンボ♂(トンボ科) 2013.06.27  
4~5cm。♂は成熟すると全身が真っ赤に。♀は黄褐色。  
♂♀とも翅の基部が橙色。赤トンボの仲間ではない。



(30)チョウトンボ♂(トンボ科) 2014.08.20  
3~4cm。♂の翅は青紫色に輝く。幅広の翅で蝶のような飛び  
方。♂はため池などで縄張り飛行をする。



(31)ナツアカネ♂(トンボ科) 2009.10.12  
3~4cm。♂は成熟すると全身が赤化。この辺りでは最も個  
体数の多い赤トンボ。初冬まで見られる。



(32)ネキトンボ♀(トンボ科) 2020.09.14  
4~5cm。翅の基部が橙色なので根黄トンボ。赤トンボの仲間  
で、成熟♂は全身真っ赤。少ない。



(33)ノシメトンボ♂(トンボ科) 2013.08.28  
4~5cm。あまり赤くない赤トンボ。♂♀とも翅の先端が黒褐  
色。湿地や水田に多い。



(34)-1 ハラビロトンボ♂(トンボ科) 2013.07.18  
3~4cm。名の通り腹部が扁平。未熟♂は全身黒っぽいが、  
成熟すると腹部は青白粉をおびる。



(34)-2 ハラビロトンボ♀(トンボ科) 2014.06.29  
♂とほぼ同大。♂♀とも前額部は青藍色に輝いて印象的。  
湿地でよく見る。



(35)-1 マユタテアカネ♂(トンボ科) 2021.09.06  
3~4cm。♂の腹部があざやかな赤色になる赤トンボ。顔面に  
一対の黒斑があり、これを眉に見立てた名前。



(35)-2 マユタテアカネ♀(トンボ科) 2020.08.18  
♀は通常赤くならない。翅の先端がこのような黒くなるものと  
そうでないものがある。顔面の眉状斑は♂と同様。



(36)ヨツボシトンボ♂(トンボ科) 2021.05.10  
4~5cm。翅に黒斑があることからこの名が。幅広でがっちりし  
た体形。ため池や湿地で見られる。



(37)リリアカネ♂(トンボ科) 2018.08.19  
3~4cm。翅の先端が褐色になっている赤トンボ。♂は腹部だ  
け鮮やかな赤に。名前はスイスの昆虫学者リス氏に由来。

## 2.トンボの生態 (ごく一部)

### (1)羽化

①クロスジギンヤンマ 2018.05.05 仰向け姿勢で一時休止。多くのトンボがこのタイプ。



②キイトンボ 2017.06.21 上向き姿勢のまま。イトトンボ類などがこのタイプ。



## (2)捕食



トンボはすべて肉食で主に他の昆虫を捕えて食べる。そのため大きな目(複眼)を持ち視力がすぐれている。写真

- ①クロスジギンヤンマが他のトンボを
- ②コオニヤンマがジャノメチョウを
- ③モノサシトンボが小型のガを
- ④アジアイトトンボがウンカ類の幼虫を

①、②のように大型のトンボが大きな昆虫を捕えて食べるのを見る機会はよくある。

③、④のように小型のトンボは目立たないがじっくり見ていると頻繁に小さな昆虫を捕えている。生態系の中で以外に大きな役目を果たしているのかもしれない。

## (3)交尾



トンボの交尾は大変ユニーク。写真のように♂♀がつながってハート型を作る。

- 1.交尾の前に♂は尾端の把握器で♀の頭か首をはさんで連結する(「おつながり」と言ったりする)。
- 2.♂は腹部を曲げて後方の生殖器から前方の副性器に精子を移す(移精)。
- 3.♀が腹端を♂の副性器に結合させて交尾。

写真左:キイトンボ 上が♂

写真右:シオカラトンボ 右が♂

## (4)産卵



さまざまな産卵様式

- ①オオアイトトンボが水面に突き出した生木の枝組織内に産卵。
- ②オオイトトンボの♀が水に潜って水中の植物組織に産卵。♀が潜るにつれて♂も引き込まれどちらもしばらく完全に水没。体表に空気層ができて呼吸ができるようだ。
- ③モノサシトンボ♂が尾端で♀をつかまえたまま直立して警護。キイトンボなどでも見られる形。
- ④ナツアカネは空中から卵をばらまく。連結でも♀単独でも産卵する。

他にも泥土や柔らかい朽木に産卵するものもある。シオカラトンボやハラビロトンボは♀が単独で産卵するが、♂が付近を飛んで警護することが多い。



## リーフレットその5発刊にあたって

リーフレットシリーズその5として、旭地域のトンボの写真集を作成しました。2008年から2021年の間に、旭地区内で37種のトンボを確認し、今回そのすべての種の写真を掲載しました。トンボを専門に調査や撮影をしているわけではありませんので、実際にはもっと多くの種類がいると思います。紙数のこともあり不十分な点が多いのですが、様々な姿・形の魅力的なトンボたちが身近にいるということをお伝え出来たら幸いです。写真は旭地区内で撮影したものに限定しています（撮影地の詳細は非公開とさせていただきます）。

表紙のタイトルに添えたように、トンボは水辺環境の指標です。幼虫（ヤゴ）は例外なく水中で過ごすので、好適な水辺環境がなければトンボは生きていけません。また、成虫になってからは樹木がある環境を必要とする種もあります。田んぼや水路、ため池、雑木林などが存在する里山は絶好のトンボの生息地です。しかし人々の生活様式が変わり、農業の形も変わってきた現代では存続困難な種も出てきています。写真掲載した種の中にも、その後一度も姿を見ないもの、明らかに減少しているもの、産地が限定的なものなど今後に懸念される種が多くあります。トンボに限らず、多様な生き物たちが命を繋ぐことができる環境を、私たちの後の世代のためにも残したいものです。

末筆ではありますが、この号の発刊にあたって、アサヒナカワトンボの同定をしていただいた守安敦氏と便宜を図っていただいた倉敷市立自然史博物館の奥島雄一氏に厚く御礼申し上げます。(T)

### 旭の里山・生きもの写真集 その5 水環境の指標 トンボ

2021年11月発行

発行責任者：石原隆志（岡山県自然保護推進員）、石原八束（同）

連絡先：hoonoki@mx32.tiki.ne.jp

HP <http://hoonoki-koubou.jp> 「岡山中北自然観察誌」

協力：岡山県自然保護センター、旭の自然を守る会

表紙写真：クロスジギンヤンマ♂（ヤンマ科）の羽化 2016.04.22 撮影

裏表紙写真：上：モートンイトトンボ♂（イトトンボ科） 2014.06.09 撮影

下：モノサシトンボ♂（モノサシトンボ科） 2010.06.16 撮影

※このリーフレットは、公益財団法人おかやま環境ネットワークの2021年度活動助成を受けて作成しました。

※主な参考図書：尾園暁・川島逸郎・二橋亮「日本のトンボ」（文一総合出版）

井上清・谷幸三・「トンボのすべて」（トンボ出版）

新井裕「トンボの不思議」（どうぶつ社）

